

サポセンニュースレター 2022年 蛇苺号



p2-4

まつど de アート
～アートがまちを楽しくする！

アートパーク (聖徳大学児童学研究所、聖徳大学生涯学習研究所)

p5_ [チャレンジャー]
生きづらわーほりプロジェクト

p5_ サポセン新規届出団体

p6_ [サポセンの事業報告]
●まつどみらいカイギ 2021
●まちづくりキーパーソン養成講座 2021

p7_ [ある日のサポセン]
「活動の幅をより広げたい！」
～サポセン周りで使える市民活動の
ITサポートの紹介～

p8_ [スタッフコラム]
なんで法人設立相談をあなたがしているの？
というお話



サポセン
メルマガ登録はこちら！
<https://bit.ly/3gf0dh6>



まつど市民活動
サポートセンター

<http://www.matsudo-sc.com/>



アートパーク

<https://artpark.exblog.jp>
聖徳大学児童学研究所、聖徳大学生涯学習研究所
美術教育：大成 哲雄

アートを美術・音楽・身体表現、遊びなど幅広く解釈し、松戸の様々な分野の人たち(大学・行政・自治会・NPO・教育機関等)が大学と隣接する松戸中央公園で2008年から15年続けているアートプロジェクト。

プロジェクトのきっかけは、子どもが公園であまり遊んでいなかったこと。もっと子どもと造形活動してみたいという学生の声があったこと。大学と地域が連携することが大切だと言われ始めたこと。子どもが安心して遊べる、自由に表現できる場がないか、地域の課題を子育て・まちづくりなどの団体と意見交換しながらプロジェクトが始まりました。

アートパークは、「子どもたちのやりたい」を大切にしています。単なる主催者・参加者という関係ではなく、その場にいる子ども・学生・大人、みんなで活動を膨らませます。また、公園の空間を活かした活動、子どもにとって外遊びの重要性を考えられる1日にしたいと思っています。



せんぱく工舎

<https://senpaku-kousya.com/>
運営：omusubi 不動産
代表：殿塚建吾

八柱駅から八柱霊園に向かう通り沿いにある、神戸船舶装備株式会社の旧社宅を改装したクリエイターたちのシェアスペース。

代表の殿塚さんが、ランニング途中に見つけたのが2015年、そこから所有者を口説き契約、昭和35年築である建物の改築費用の一部はクラウドファンディングで調達しました。2018年6月に若いクリエイターのチャレンジの場・アートの拠点として無事に出航(オープン)し、4年近くが経ちます。住人たちは、ここを足がかりに、街を面白くしたい人たちとつながって、活動を営みを広げていきます。アートを道具に、街や暮らしと人を紡いでいくことで街が豊かになっていく。アートと街の有機的なつながりを生む大きな装置のような役割を果たしてきました。

以前はマルシェなどのイベントを重ねてきましたが、コロナ禍で大きくはできないものの、2020年6月からは、毎月最終土曜に「ゆるっとオープンデー」を開いて、アートや街を楽しみたい、つながりたいひとの訪れを待っています。



音楽療法 UNICO まつど

<https://uniunico.com/>
運営：NPO法人ユニークユニバース
代表：益山ゆき

障がいを持っている子ども達に音楽療法(※)を始めとする芸術活動を通じて、その個性を發揮し自由にのびのびと表現できる場をつくりたい。

そんな思いで多機能型事業所(児童発達支援、放課後等デイサービスの「UNICO(ユニコ)」をのみり台で運営。

「UNICO」のプログラムは、音楽療法士のスタッフが主に伴奏の形で一人ひとりの子が自由に奏でる音に合わせるセッションをはじめ、絵画やダンス、物語作り、最近ではプログラミングなどICTツールも利用した自己表現活動などが特徴です。「音楽(芸術)はどんな感情も否定しない」と代表の益山さんは言います。そして障がいを持っていない子ども達にも、制約が日常の中に多い今こそそれらが必要なのではないかと感じているそうです。また障がいのあるなしに関係なく参加できる音楽イベントやアートワークショップの開催、障がいのない方へ、自分を知るための音楽療法の提供も行っています。

※音楽の持つ力と人とのかかわりを用いてその対象者を多面的に支援していく療法



PARADISE AIR (パラダイスエア)

<https://www.paradisear.info>



楽園を意味する PARADISE とアーティスト・イン・レジデンス(Artist In Residence)の略称 AIR から PARADISE AIR と名付け、2013年から活動中。国内外のアーティストが松戸を訪れ、滞在しながら作品制作をおこなえる場所です。

江戸時代、水戸街道の宿場町として栄えた松戸駅前、江戸と水戸をつなぐ拠点として多くの旅人が行き交いました。地元住民の邸宅には過去に訪れた文人画人が宿泊料代わりに残した作品が今も残ると言われます。

ホテルだったビル(パチンコホール楽園の上階)を活用し、かつての松戸宿の歴史伝統をふまえた「一宿一芸」をコンセプトとするパラダイスエアもまた、国内外のアーティストが行き交う文化・芸術のトランジットポイントとして新たな歴史を積み重ねています。

最近では、松戸市民の皆さんとアーティストが協働して壁画を制作したり(松戸駅南側の地下歩道)、海外アーティストを含む数名を迎えた長期滞在プログラムを実施するなど、コロナ禍においても試行錯誤しながら、活発に活動しています。



撮影：加藤南



団体名の「わーほり」はワーキングホリデーから。環境を一定期間変えて暮らすことで生きづらさを抱えた人が元気になる、というお話を聞いて命名したそうです。

もともとは、ひきこもり問題とは無縁だった代表の富安さん。ですが職場でメンタル的に不調な方々を見聞きしたことで興味を持ち関連のイベントに参加。そこから「何か自分でも出来ないか？」と思うようになり2016年団体を立ち上げました。当初は板橋区で活動していましたが、あるひきこもりの家族会に参加した時「松戸にもそういう場(ひきこもり当事者が集う場)があると良いのだけ」という声を聞きニーズを感じたことから松戸市内でも始め、現在は松戸市市民活動助成制度

ひきこもりなどで生きづらさを抱えている人の場づくりや関連のイベントを企画運営。

CHALLENGER
チャレンジャー 市民活動団体紹介

生きづらわーほりプロジェクト

生きづらわーほり

ホームページ 

お問い合わせ
代表：富安義樹
E-mail: zurahori@yahoo.co.jp
ホームページ: https://ikizura-wh.jimdofree.com/

活動理念

調和につなげるデザインとステージ

- 調和 生きづらさに折り合いをつけ自分なりに人生を歩めている状態
- デザイン 人生の設計
- ステージ 日々の暮らし

も活用し活動しています。ひきこもりの方の生きづらさを和らげるために活動していますが、活動を通してほかの分野の団体とコラボしたり、繋がりを広げられたりすることが楽しいから続けられている面もあるとのこと。深刻な社会課題としてみられがちな「ひきこもり」を支援している方も、他の様々な市民活動の方々と同じように活動を通して得られる人との繋がりが原動力になっているとお話を聞くことができました。



マスコットキャラクター だいじょうぶくん

松戸市内での活動のご紹介



つたわりミニ(ゲームを楽しむ)



ワークショップ「10年後ゲーム」



茶話会



ヒルトーク(配信中)

生きづら Cooking-Meeting 「つたわり」

みんなで料理を「つくり」美味しく「たべて」お話しして「わらい合い」ながら「リラックス」する会

毎月1回

※まつど市民活動サポートセンター調理室にて活動

ハートtoハート 懇談会

ひきこもり当事者、経験者、家族、支援関係者その他関心のある方による交流イベント

年1回程度

※市外での開催の年もあり

わーほりラジオ「ヒルトーク」

ひきこもり関係者をゲストにzoomでのライブ配信のラジオ

毎月1回

※配信会場が市内

NEW REGISTRATION

サポセン 新規届出団体を紹介！

- ファミリーサポート・勇気づけ
- 日本防災士会千葉県支部
- アンサンブル・北小金
- まつどでつながるプロジェクト運営協議会
- 矢切ハイアムダンスクラブ
- 矢切つ子食堂
- 大人軽音部Anyone(アベニューズ(爆))
- グローバルコミュニティまつど
- 東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト
- ときわ窯
- 松戸保護司会OB会
- 浅間台ハイホーム理事会
- シニア英会話
- バナナかぞく
- きたまつどごみゼロくらぶ
- 踊りの会
- ACT/小金原清掃ボランティア会
- 曼荼羅アートサークル manda-rhythm
- 大橋小学校 家庭教育学級

2022年2月1日～5月31日(届出順・敬称略)



できる街プロジェクト

https://dekimachi.com/
会長：村井真也 担当：楠本慶彦

テレビでも放映された柏のご当地アニメ「超普通都市カシワ伝説」の制作を始めとし、劇団・障がい理解促進漫画の制作・ひきこもり支援の活動等を過去に行っている。

松戸でも地域を舞台にした2種類のアニメを制作しており、市民プロジェクトメンバーの募集時には、なんと10～50代の男女約50名の応募がありました。

「松戸に長く居る人もいれば、『最近引越してきて、街との関わりがほしい』という方もいて、松戸にはアンテナの高いクリエイターもたくさんいることも分かりました」と話すのは、楠本さんと共に団体を立ち上げた会長の村井さん(脚本家)。自身も劇団出身で、若いクリエイターが上手くいかず命を絶ってしまうケースの多さを知り、「彼らをバックアップしつつ、クリエイティブな素養が求められる近年のまちづくりとつなげていけないか」と、団体を立ち上げました。

「自分たちだけではなく、地域の人を楽しめる活動をしたい。市民活動って、内々で動いてしまうイメージもまだ持たれているので、なるべく新しい人と繋がって、盛り上げられるようにしていきたい」と、エンタメの根本である「面白いこと」と「多様な人が関わる」ことを掛け合わせた活動に今後も注目です！

できる街プロジェクト
-The Project of wish realization-

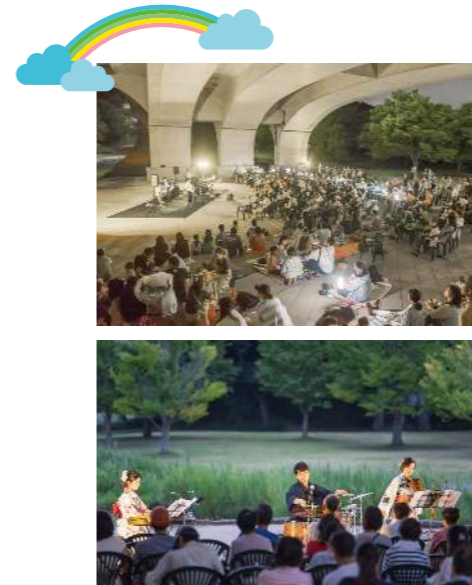


松戸市町会・自治会PRアニメ

第4話 じちまる、町会に入るの巻

松戸市の町会・自治会PRアニメ【第一話】
https://youtu.be/AZfDfDRaTdl
※松戸市協働事業として作成

「できる街プロジェクト」の内容を紹介するYoutubeチャンネル「千葉のテガちゃんネル」
https://www.youtube.com/channel/UC3FJyX35H9GSaHwWYPlm44w



21世紀の森と広場 ドコでもシアター

https://www.facebook.com/docosia.info
一般社団法人 STUDIO MOC (スタジオモック/以下MOC)
代表理事：萩野正和



「21世紀の森と広場 ドコでもシアター(以下ドコシア)」は、松戸市からみどりの良さや魅力を伝えたいというオーダーに応えた手段としてのイベントであり、MOCが主体となり、松戸市との連携事業というかたちで2012年にスタートしました。

市との共催の中で、開始当初は様々な課題や制約も多くありましたが、音楽、食事、企業連携、夜間開催、ワークショップ、協賛金募集など様々な実験的テーマを設定し、1つずつクリアにして、同公園の実践的な取組み事例を増やし、活用の幅を広げてきました。

ドコシアでは、多様なメンバーによる企画ゆえに各回の内容は特色あるものばかりで、来場者を飽きさせないように毎回配慮しているとのこと。紅葉と生声オペラ、真っ暗な夏夜の森でのジャズ、中秋の名月と楽器、自作楽器でのコラボ演奏など、同公園の「本物」のみどりに引けをとらない質にこだわっていて、いつもとは違った公園の過ごし方を提供しています。

MOCは、Milieu Of Collaborationの略。Milieuとは、フランス語で「(何か)が生まれそうな、社会的な)中心、真ん中」という意味で、いろんな分野から人が集まって、コラボレーションによって様々なことを仕掛けるような、真ん中の存在になっていきたいという想いが込められています。

メンバーは、まちづくりプロデューサーや都市計画コンサル、音楽演奏家、行政、飲食事業者などなど、分野の違う職能を持っている多様な面々で構成されている。MOCやドコシア等に関わり続けるためにはいろんな想いがあるといい、いろんな関わり方があるといい、また負担なくメンバーが関わり続けられるように運営されています。



MOC フェイスブック
https://www.facebook.com/studiomoc.info/

(写真左から)近藤隼人さん、代表理事 萩野正和さん、熊倉敦さん

2021年12月4日(土)

まつどみらいカイギレポート

約60名の方にご参加いただいた2021年度のみらいカイギ。プレゼンされた5つのテーマはどれも「新しいまつどの暮らし」を想起させるような、聞いていてワクワクする内容ばかりでした。

プレゼンター各々の「なぜ、これを実現したい(やってみよう)のか」という熱い想いを聞き、「こんなこともあったらいいなあ」「これならお手伝いできます!」「他のグループともコラボできそうだね」と参加者からの熱いコメントが重なり、様々なアイデアを掛け合わせ、新しいアイデアがまた生まれる...というポジティブな循環が生まれていました。

当日は各グループにグラフィックレコーディングチームの皆さんに入ってもらっていただき、アナログ・デジタルを駆使してまとめていただきました。対話のなかの一人ひとりの声を拾いあげ、表現してくださいました。ぜひQRコードの特設サイトにてご覧ください。

このカイギで生まれたほぼすべてのプロジェクトが、一歩ずつ実現に向けて動き始めています。今後の動きはサポセンのFacebookや、こちらの「ぼく」などでも取り上げていきたいと思っておりますので、注目ください!

当日の実施報告やグラフィックレコーディングの記録はこちら!

特設サイト



<https://mkaigi.matsudo-sc.com/>

5人のプレゼンター



2021年7月25日(日)・10月17日(日)・11月28日(日)

まちづくりキーパーソン養成講座

2021 開催レポート

「社会の課題解決・理想実現に挑む事業と組織の運営の基礎を学ぶ」

「地域のニーズに基づいた調査から事業計画を立てる」

まちづくりに取り組んでいる団体運営者の方々に向けて、実践的な学びを届ける連続講座を開催しました。I I H O E「人と組織と地球のための国際研究所」の代表である川北秀人さんを講師に呼び、3回にかけて各団体が目標としていること、実現したいことは何か、あらためて向き合っていました。

まず初めの講義で印象的だったのは「あなたは「社会を変えたい」のか、「社会に良さそうなことをしたい」だけなのか?」という問い。市民活動の原動力は「一人ひとりの想い」である一方で、もしかするとただ感じたことに取り組んでいるだけなのかもしれない。参加者一同ハッとした瞬間でした。川北さんは続けて、社会の課題を解決し理想を実現するために必要なことは「ニーズを知りぬいて、その代弁者たれ」、「先輩と歴史から徹底的に学べ」、「事業の計画ではなく、社会を変える計画をつくれ」の3つだけであると話されました。

今回の講座では特にニーズを知ることになり、各団体がテーマとしていることについて深く掘り下げていきました。参加された団体からは「毎回の課題がとて重たく、頭をフル回転させて臨んでいました。大変でしたがこれからの団体の運営にとって重要な学びになりました」といった声が寄せられました。



まちづくりキーパーソン養成講座2021

社会の課題解決・理想実現に挑む事業と組織の運営の基礎を学ぶ

～地域のニーズに基づいた調査から事業計画を立てる～

第1回 7月25日(日) @ 動物会館
第2回 10月17日(日) @ Zoomによるオンライン開催
第3回 11月28日(日) @ まつど市民活動サポートセンター ※当日14時～17時

講師 川北秀人さん
I I H O E 人と組織と地球のための国際研究所 | 代表

どんなサポートがあるの?

1 市民活動IT化サポート キャンペーン(IT相談)

毎週火・木・日曜日に、ITに特化した個別相談の枠を設けています(事前予約制)。



まつど市民活動IT化応援

毎週火曜日にサポセンでパソコン・ITに関するご相談ができます!
ご希望の時間帯はメールまでご連絡ください!

オンライン化による
どんな相談ができるか
一緒に考えてほしい!

仲間でオンライン会議を
できるようにしたい!

オンライン配信をしたいので
アドバイスをほしい!

なんかうまくいかなかった
から助けてほしい!

相談例

オンラインツールを使った学習支援のアドバイスがほしい

ホームページを作りたい・リニューアルしたい

LINE@やGoogleフォームの使い方を知りたい



2 オンライン相談

サポセンまで直接足を運ばない...という場合でもZoomにてコーディネーターが市民活動の相談に応じました。

相談例

NPO法人の設立について/
団体とのマッチング(個人/団体)等



3 市民活動のための備品貸出 (松戸市市民自治課)

市民活動を効率的・効果的に行うためにオンラインやリモートでの活動を可能とするため、備品の貸出を行っています。(予約・貸出窓口はサポセンです)



備品の一覧など詳細はこちら

<https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/online/bihinkashidashi.html>



4 市民活動オンライン化を サポートする講師の無料派遣 (松戸市市民自治課)

オンライン会議のやり方やSNSを活用した事業周知など、活動のオンライン化のお悩みを解消するため、講師をご希望の場所に派遣します。



サポセンのコーディネーターが講師としてこんな派遣に応じました!

オンライン配信イベントのリハーサルと機材配置・トラブル予防を手伝って欲しい

団体のメンバーがzoomを使うようになるための講座をして欲しい

SNSってどう使うの? 基礎から使い方まで団体のみんなに教えて欲しい

活動の幅をより広げたい!

サポセン周りで使える市民活動のITサポートの紹介

未だに続くコロナ禍により、活動のオンライン化を考えた団体も少なくはないのでは。サポセンや松戸市では初心者〜中級者まで、色々な活用ができるIT化のサポート事業を行っていることをご存じですか? たくさんの方の皆さんにご活用頂きましたが、どんな相談があったのか、事例を交えてサポート内容を一部ご紹介いたします!



他にも「こんなことできる?」「こんなことしてほしい!」に対して、できる限りお応えするようになっています。4の講師派遣は原則1団体1年度(4月~翌年3月)につき1回までですが、サポセンで行っているIT相談やオンライン相談は何度でも利用できます。これからの時代のIT活用にぜひご利用ください! (※ITに関するご相談は事前にお問い合わせください)



なんで法人設立相談をあなたがしているの？というお話

よろず相談など、講座で出会った人には一部お伝えしているが、私は過去にNPO法人を立ち上げてみることが、失くしたこともある。正確に言えば、決算と活動報告を出せないまま年月が過ぎ、認証取消になった。取消の行政手続き自体は極めて適正だし、その頃自分が関わっていた諸々の組織・活動にも多大な迷惑をかけた。当局はじめ周りの皆さんには今でも申し訳無さしいです。

2000年代、NPO法ができてしばらくは、とにかく法人の増加が市民活動の評価だったと感じる。そこで、法人設立を指南する講座はあっても、本当にやっていける？という声かけをする人や、どこからが危険ゾーンでどの段階で整理しなければいけないか、今という「終活」の話は出会わなかったように思う(サポートセンではやりましたね)。

法人の立ち上げ相談があると、迷う。この人たちがいざれ憂き目に合わないかと。活動と

自分の失敗がせめて反面教師として、誰かが自分の心の種から生まれた活動を大切にできる法人をつくる、その最初の「ふみきり板」になれたら、と思って設立相談に乗っています。失敗を糾弾する大人より、それを未来に活かせる大人のほうが、より明るい未来をつくれると信じて。



まつど市民活動サポートセンター
副センター長・
コーディネーター
小熊浩典

事務と自身の生活の間に挟まれ、頼れるうちに頼れず、となりはしないか。設立講座で話すとき「大丈夫？」と声掛けをするようにしているが、もちろん最終的には本人が納得して結論を出すべき。自分も、うまく終わりを引けなかったことへの後悔・申し訳無さはあっても、活動から立ち上げたこと自体の後悔は無い。

「新しい法人なぞ立ち上げずに、既存の団体がフランチャイズ的に大きく複数事業所・多地域展開すればいい」「NPOの事業規模の拡大こそが社会を変える力だ」そんな考え方もある。一部の、要領の良い、頭の回る社会起業家がつくる未来があることもわかるが、地元で泥臭く活動をはじめて続けている人(気づいてしまった人、ともいう)が頑張るって団体を立ち上げ、子ども・環境・高齢者などいろんな分野が、色とりどりの自治・選択肢をもつ市民活動が、凹凸はあっても好き。



サポセンニュースレター



第27号(2022年蛇苺号)

発行日: 2022年5月31日
(※年4回発行)
発行元: まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者 NPO法人まつどNPO協議会)

「ぼっく」の主な設置場所 松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種公共施設の他、松戸駅などに設置しています。

「ぼっく」設置協力店

- Sampo Café(八ヶ崎7丁目)
- 子育てつながるセンター co-no-mi (本町13-27)
- 松戸観光案内所(本町7-3)
- やしま商店(本町6-3)
- 隠居屋 IN kyo-Ya(南花島中町196)
- はれの日サロン(常盤平3-10-1 セブントウン常盤平1階)
- omusubi 不動産 (総台1-21-1 あかぎハイツ 112)
- Coworking Space Flat Café & Bar (新松戸3-289)
- 昭和セレモニー松戸・矢切・北小金儀式殿 (千駄堀620-1・栗山19-4・殿平賀75-2)
- 松戸スタートアップオフィス (松戸1307-1 松戸ビル13F)
- みんなの居場所そらいる House ふらここ (五香4-53-1-101)

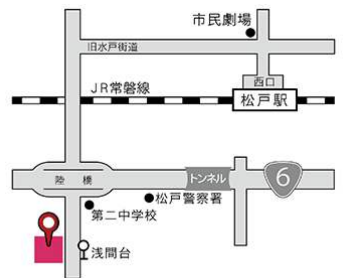
「ぼっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します!

ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけませんか? ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。広告掲載も募集中です。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

まつど市民活動サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)
TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636
E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com
URL: <http://www.matsudo-sc.com/>
facebook: <https://www.facebook.com/matsudo-sc>

開館時間
月～土: 9時～21時
日: 9時～17時
休館日
第1・第3水曜、
年末年始
(12/29～1/3)



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設利用に制限がある場合があります。詳細はサポセンホームページをご覧ください。

編集後記

「ボランティアや何かやりたい」とサポセンに来館される方が増えています。思った時がその時!(ひ)